

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	62人	算数	62人	理科	62人
第5学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

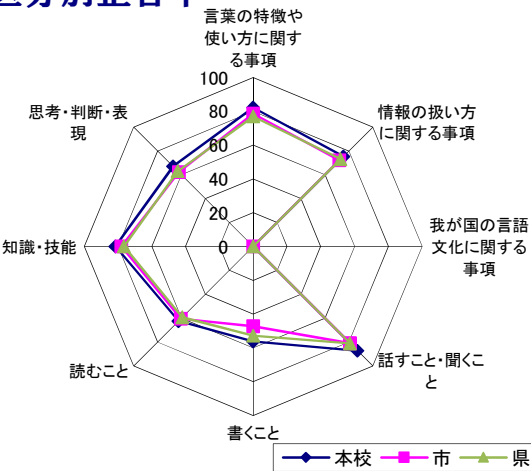
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	82.2	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	75.4	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	87.3	81.0	81.1
	書くこと	56.2	47.2	52.8
	読むこと	62.5	60.5	59.3
観点	知識・技能	81.5	78.0	76.5
	思考・判断・表現	67.1	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

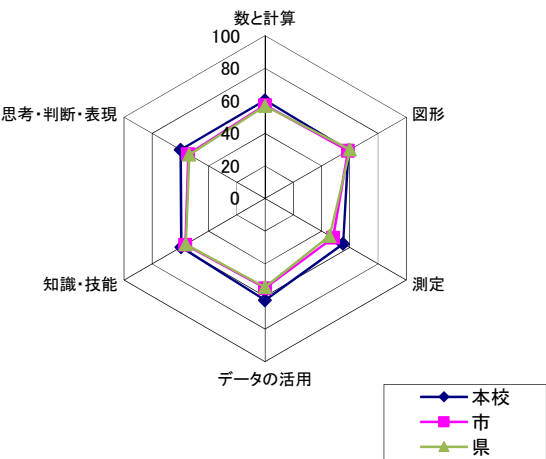
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	・領域全体の平均正答率は82.2%で、市平均を3.6ポイント上回った。 ○ 漢字の読み書きに関するすべての問題において市平均を上回っており、第3学年で学習する漢字の定着が見られた。 ○ 指示語の理解やローマ字の読みでは、市平均を5ポイント以上上回り、いずれも高い正答率を示している。	既習漢字の復習を単語単位にとどめず、熟語や文脈の中で繰り返し活用する場を設ける。特に、文章作成の際に既習漢字や熟語を正しく用いることができるよう、構成面を含めた指導を丁寧に行い、定着を図る。
情報の扱いに関する事項	・領域全体の平均正答率は75.4%で、市平均を3.2ポイント上回った。 ● 国語辞典に掲載されている語の並び順を選択する問題では、正答率が75.4%にとどまり、語彙に対する理解や辞典の使い方に課題が見られた。	初出語や不明な語句について自ら調べる習慣を育成するため、国語辞典を日常的に活用する場面を継続的に設定する。あわせて、短文作成を通して語句の意味理解を深める指導を行う。
話すこと・聞くこと	・領域全体の平均正答率は87.3%で、市平均を6.3ポイント上回った。 ○ 内容を聞き取って解答する問題では、全設問において市平均を上回っており、聞いて理解する高さがうかがえる。	教育活動全般において、自他の意見を比較しながら聴く力と、自らの考えに根拠を持たせて伝える力を育てる言語活動を充実させる。また、話し合い活動では、役割に応じて話し方や聴き方が変化することを理解させるため、多様な立場を経験できる場面を設ける。
書くこと	・領域全体の平均正答率は56.2%で、市平均を9.0ポイント上回った。 ○ 指定された行数(6～8行)内で文章を書くという条件を満たして記述できた児童は60.7%で、市平均より8.7ポイント高い。 ● 一方で、問題の意図に沿った内容を書き切れていない児童も見られ、記述力に個人差が存在している。	内容の整理や段落構成など複数の条件を意識しながら記述する力が十分ではないため、国語の授業において要約や条件付き作文などの活動を繰り返し実施し、論理的に書く力を育成する。
読むこと	・領域全体の平均正答率は62.5%で、市平均を2.0ポイント上回った。 ○ 物語文では、叙述に基づいて登場人物や場面の様子を的確に捉えることができ、市平均を9.5ポイント上回った問題もあった。 ● 説明文では、指示語の内容を選ぶ問題において正答率が42.6%にとどまり、指示語の理解に課題が見られた。	各単元の学習目標や重点事項を明確に提示し、児童自身が身に付けるべき言語力を意識した学習を行えるようにする。そのうえで、文章全体を見通し、内容を正確に捉える力の育成を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.4	57.4	56.9
	図形	59.0	58.7	60.1
	測定	55.3	48.1	45.7
	データの活用	62.3	54.9	54.3
観点	知識・技能	59.5	56.6	56.2
	思考・判断・表現	59.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

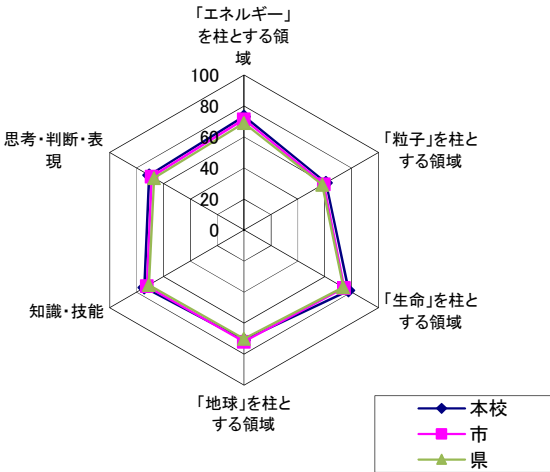
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域全体の平均正答率は60.4%であり、市よりも3.0ポイント高かった。 ○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題の平均正答率は65.6%であり、市よりも18.8ポイント高かった。 ●3桁－3桁＝3桁、2桁×1桁＝3桁の計算問題の平均正答率はともに75.4%であり、市よりもそれぞれ5.1ポイント、5.8ポイント低かった。	・基礎的な計算技能は、市の平均と同程度であった。また、分数の数量的な理解ができており、分数の大きさを数直線を使って比べたり、テープ図をもとに何分の1の大きさを図示して表したりしたことの成果と考えられる。今後も、視覚的な見通しを持って、数量を比べられるよう指導していく。 ・一方で、引かれる数に空白がある計算や、繰り上がり有的时候にさらに位が上がる計算の習熟がやや不十分である。今後は、加減乗除それぞれの基礎的な計算・筆算に繰り返し取り組み、計算技能の向上を図っていく。
図形	・領域全体の平均正答率は59.0%であり、市と同程度であった。 ○箱の横の長さから球の半径を求める問題の平均正答率は62.3%であり、市よりも5.8ポイント高かった。 ●球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ問題の平均正答率は55.7%であり、市よりも14.0ポイント低かった。	・円や球の構成要素についての見方をもとに、箱や直線の長さや球の半径を置き換えることができた一方で、球の切り口の形を正しく答えることはできなかった。このことから、図形の性質を活用して身近なものの長さを求めることは概ねできているが、実際の形をイメージすることは難しかったと考えられる。今後は、異なる図形の性質を活用して長さを求める問題場面を取り入れたり、具体物やデジタル教材を活用して、立体の断面の形をとらえられるよう指導していく。
測定	・領域全体の平均正答率は、55.3%であり、市よりも7.2ポイント高かった。 ○単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短いか説明する問題の平均正答率は62.3%であり、市よりも9.0ポイント高かった。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題の平均正答率は41.0%であり、4割程度の正解にとどまった。	・道のりの単位をそろえたり、計算をして数量の大小を比べたりすることは、多くの児童ができた。単位を相互に変換して、比べる活動や問題練習を繰り返したことの成果と考えられる。今後も、長さや体積(かさ)について、単位の変換をして比べる活動を積極的に取り入れて指導していく。 ・重さをgからkgへ変換して考えることはできたものの、入れ物の重さを引くことに考えが及ばなかった児童が多く見られた。今後は、測定したいものと測定値から外すべきものなど、問題の情報を整理して、条件に合った計算ができるように、手順を示しながら指導していく。
データの活用	・領域全体の平均正答率は62.3%であり、市よりも7.4ポイント高かった。 ○縦と横の2つの方向にデータが並べられた表(以下は、「二次元の表」という)から分かる正しいことを、選択する問題の平均正答率は70.5%であり、市よりも10.4ポイント高かった。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題の平均正答率は49.2%であり、正答は半数に満たなかった。	・二次元の表を正しく見て、正しい情報を読み取ることができた。一方で、積み上げ棒グラフのデータが何を表しているのかや、利点について説明することは、半数の児童ができなかった。二次元の表だけでなく、データの重なるグラフの読み取り方やどのようなときに表すとよいかなどを話し合い、実用できるように指導していく。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.3	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	61.1	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	77.8	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	70.9	72.0	70.1
観点	知識・技能	74.2	72.5	70.9
	思考・判断・表現	70.6	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・平均正答率は73.3%であり、市の平均より1.9ポイント高い。 ○声が一人だけに聞こえたことを手掛かりに、糸電話の糸をつまんだ場所を推測し、聞こえた人物を選ぶ設問の正答率は77.1%で、市の平均を11.1ポイントと大きく上回った。 ●複数の鏡ではね返した日光を重ねて当てた場所のうち、同じ温度になる部分を答える問題の正答率が、市より7.6ポイント下回った。	・糸電話の実験のように体験活動の時間を十分に取り、実感を伴った理解が得られた内容については正答率が高いことから、今後も、繰り返し実験したり、納得できるまで条件を変えて試したりする体験活動の時間を確保し、知識の一層の定着を図っていく。 ・鏡で反射させた光を重ねた場合の温度についての設問のように、知っているはずの知識であっても問い方が変わると答えられないことがあるため、違う場面に応用する発問や誤概念が表出しやすい発問などで揺さぶりを掛け、深い理解につなげていく。 ・無回答が散見されることから、間違いを恐れず自分の考えを表すことの大切さを日頃から繰り返し指導していく。
「粒子」を柱とする領域	・平均正答率は61.1%であり、市の平均より1.8ポイント高い。 ○●粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ問題では、市の平均を5.8ポイント上回ったが、正答率が32.8%で低い。	・粘土の形が変わっても重さ是不変という初歩的粒子概念は概ね定着していると考えられるが、自分とは異なる考え方の他者の予想を理解し、その場合の結果を推測することに課題が見られる。実験の予想をする際、単純に自分の予想を立てるだけでなく、自分とは異なる予想についてもよく吟味したり、もし○○だったらこうなるはず、△△だったらこうなるはずと、様々な可能性を議論したりする活動を取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	・平均正答率は77.8%であり、市の平均より3.3ポイント高い。 ○モンシロチョウを基に、クモが昆虫といえるか正しいものを選ぶ問題の正答率は73.8%で、市の平均を9.8ポイント上回った。 ●モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを答える問題では、市の平均正答率を6.7ポイント下回っている。	・豊かな自然環境で生活していることで自然の様子を体験的に捉えることができていると考えられ、今後も継続した指導を行っていきたい。 ・モンシロチョウとトンボの育ち方の違いは、片方のみについて記述する回答が見られた。違いについて記述する際は比較する両方について述べるように習慣付けようにしていく。
「地球」を柱とする領域	・平均正答率は70.9%であり、市の平均を1.1ポイント低い。 ○温度計の正しい使い方の正答率は91.8%で、市の平均を8.0ポイント上回った。 ●太陽と日陰の位置関係と、日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ問題の正答率が、市の平均よりも8.8ポイント下回った。	・かげと太陽の位置については、物の影の方向を時間を追って継続的に観察し、太陽と日陰や影の位置関係を調べさせていく。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」の肯定的回答は88.9%で、市の平均を7.4ポイント上回っている。また「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」の肯定的回答は95.2%で市の平均を6.8ポイント上回っている。学習内容に応じてペアやグループ・全体発表などを適切に取り入れ、考えの発表や話し合いの中でアウトプットする機会を設けた結果と思われる。今後はさらに、自分の考えを改めて認知したり、友達の発表を聞いて考えを広げたりすることができるように工夫をしていく。

○自分自身のことに関わるものとして、「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」に対する肯定的回答は74.6%で、市より5.4ポイント高い。また、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」に対する肯定的回答は93.7%で市と同程度である。お互いの良さを認め合う機会を設けたり、意図的に活躍の場を設定したりすることで、学級への帰属意識や自己肯定感を高められるよう工夫した結果と考えられる。今後はさらに、達成感が味わえる活動を行い、授業でも自信がもてる活動を積極的に取り入れ、家庭や地域と連携しながら自己肯定感を醸成していきたい。

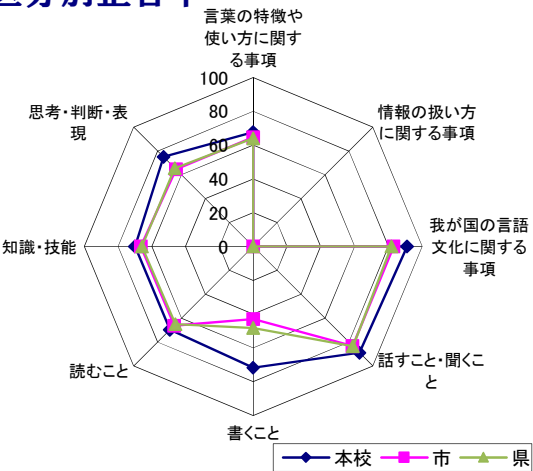
●家庭での学習に関わるものとして、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定的回答は58.8%で市よりも3.2ポイント低い。また、「家で、学校の授業の復習をしている。」に対する肯定的回答は58.7%で市と同程度である。今後は、理解度の低い単元の補充やICTを活用するなど学年・学級の実態や個に合った指導に努める。また、学校で配付している「自主学習のヒント集」を活用して、さらなる家庭学習の習慣化を目指す。

●読書に関わるものとして、「1か月に、何さつくらい本を読みますか。」との質問に対し全くしないと回答した児童は14.3%で、市よりも6.9ポイント高い。また「学校の授業時間以外に、平日、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。」との質問に対し、全くしない又は10分より少ないと回答した児童は42.9%で、市より5.7ポイント高い。今後は、学校図書館と連携し、授業と関連する本を紹介したり、朝の学習などで読書をする時間を確保したりするなど、読書への興味を引き出し、本と触れる機会を多くする取り組みに努める。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.7	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	91.1	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	88.9	83.3	83.4
	書くこと	71.7	42.8	48.2
	読むこと	69.7	66.1	65.1
観点	知識・技能	70.0	66.5	65.9
	思考・判断・表現	75.0	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

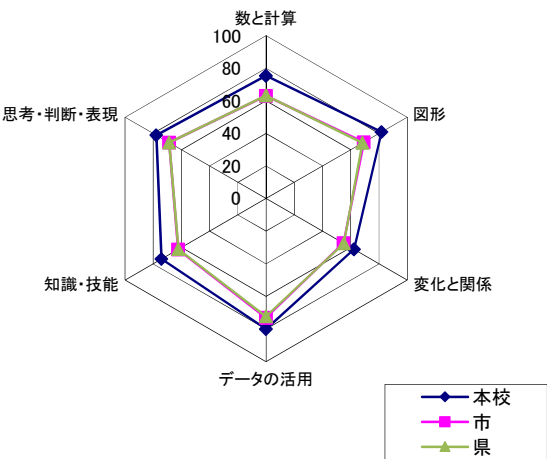
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域全体の平均正答率は67.7%で、市平均を3.0ポイント上回った。 ○ 熟語の漢字の組み合わせの種類を問う問題では、市平均を22.6ポイント上回っており、漢字の組み合わせに基づく熟語の意味を的確に理解できていた。 ● 一方で、漢字を書く問題では3問中1問が市平均より15ポイント以上低く、漢字の定着に課題が見られた。	既習漢字の復習においては、単語単体での練習にとどまらず、熟語を通して多様な読み書きに触れる機会を設ける。また、文章作成活動の中で、文章構成を意識しながら既習の漢字や熟語を活用できるよう丁寧に指導し、継続的な定着を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	・領域全体の平均正答率は91.1%で、市平均を8.0ポイント上回った。 ○ ことわざの意味を理解し、自らの表現に活用する問題では、正答率が91.1%と非常に高く、無回答も見られず、ことわざに親しむ姿勢がうかがえた。	ことわざや表現への親しみを育む指導として、読み聞かせやスピーチなどの活動を通じて、多様な言い回しやことわざ、故事成語に親しむ機会を意図的に増やし、楽しみながら表現力を高める。
話すこと・聞くこと	・領域全体の平均正答率は88.9%で、市平均を5.6ポイント上回った。 ○ 参加者の発言内容を踏まえ、司会者として適切な発言を書く問題では、市平均より11.8ポイント高く、話の要点を捉えた表現ができていた。 ○ 意見の共通点や相違点を意識しながら自分の考えをまとめる設問においても、市平均を5.3ポイント上回っており、思考整理と表現が両立していた。	教育活動全般において、友達の意見との共通点や相違点に着目しながら話を聞く姿勢を育てる。話し手の意図を的確に捉える力を養うため、話し合いの機会を計画的に取り入れていく。
書くこと	・領域全体の平均正答率は71.7%で、市平均を28.9ポイント上回った。 ● しかしながら、無回答率が8.9%とやや高く、特にアンケート結果から読み取った内容を1段落目にまとめる設問では、正答率が28.9%にとどまった。内容の中心を明確にし、事実に基づいた文章を構成する力に課題があると考えられる。	段落構成や要点の整理など、複数の条件を意識した記述に慣れていない児童も見られるため、国語の授業において要約や条件作文の練習を繰り返し、自分の考えをもち、明確に表現する力を育成する。
読むこと	・領域全体の平均正答率は69.7%で、市平均を3.6ポイント上回った。 ○ 登場人物の気持ちを具体的に想像する問題では、市平均より8.1ポイント高く、物語の登場人物に対する理解が深まっていた。 ● 一方、物語文における傍線部の発言者を特定する設問では、市平均より11.1ポイント低く、場面や人物の関連づけに課題が見られた。	児童に学習のめあてを明確に提示し、叙述に焦点を当てて読む活動を継続して行う。問題文と本文を行き来しながら読む習慣をつけ、文章全体を見通しながら内容を正確に捉える力の育成を目指す。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.4	63.0	63.3
	図形	81.7	69.2	68.3
	変化と関係	62.2	54.8	55.0
	データの活用	80.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	74.2	62.3	62.1
	思考・判断・表現	77.8	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

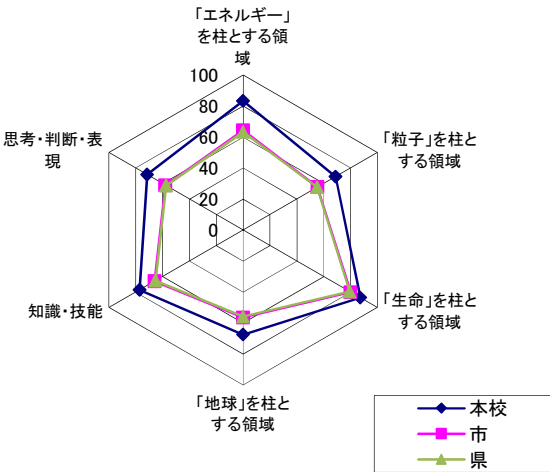
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域全体の平均正答率は75.4%であり、市よりも12.4ポイント高かった。 ○2つの小数について、もとにする小数のいくつ分かで大きさを比べる問題の平均正答率は75.6%であり、市よりも25.3ポイント高かった。 ○帯分数を、もとにする分数のいくつ分かで大きさを考える問題の平均正答率は75.6%であり、市よりも16.7ポイント高かった。	・領域全体において市よりも10ポイント以上高い平均正答率を示し、基礎的な計算の習熟がうかがえる。特に、もとにする数のいくつ分かで、小数や分数を表して考えることで、整数同士の単純な計算に置き換え、求めることができたと考えられる。今後も小数や分数においていくつ分で表すかや、数直線を使って数の大きさの見通しをもたせるなど、多様な見方・考え方を活用して計算できるよう、指導を継続していく。
図形	・領域全体の平均正答率は81.7%であり、市よりも12.5ポイント高かった。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ問題の平均正答率は88.9%であり、市よりも17.6ポイント高かった。 ○ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ問題の平均正答率は82.2%であり、市よりも16.8ポイント高かった。	・三角定規を組み合わせたり、重ねたりしながらできた角の大きさを求めることは、非常に多くの児童ができた。これは、三角定規の3つの角の大きさ、定規を重ねたり組み合わせたりしたときの角の大きさの求め方を繰り返し確認したことの結果であると考えられる。これからも計算をもとに角の大きさを求める活動を積極的に取り入れていく。 ・座標上の地点間の距離を逆算し、もとの位置を求めることは多くの児童ができていた。座標の位置の表し方を十分に理解していた状況がうかがえる。今後も図や表を提示しながら視覚的な見通しをもって、座標の位置や距離を求められるように継続して指導していく。
変化と関係	・領域全体の平均正答率は、62.2%であり、市よりも7.4ポイント高かった。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の平均正答率は、62.2%であり、市よりも13.2ポイント高かった。 ●割合を使った長さの求め方を説明する問題の平均正答率は、46.7%であり、正答は半数に満たなかった。	・多くの児童が、2つの数量の関係を式に表すことができた。表を見ながら、対応する数や変化の特徴について見つけたことを伝え合う活動を重ねたことで、数量関係を口や○を使って表すことができたと考えられる。今後も重点を置いて継続して指導していく。 ・基準量をもとに割合を求めることに大きな課題が見られる。もとになる数と、比べる数の関係を正しく理解できるよう、テープ図など視覚的な支援を用いながら指導していく。
データの活用	・領域全体の平均正答率は80.0%であり、市よりも6.9ポイント高かった。 ○二次元の表の空欄に当てはまる人数を答えたり、どのような人数を表しているか説明したりする問題の平均正答率は、それぞれ84.4%、86.7%であり、ともに市よりも9.3ポイント以上高かった。	・多くの児童は、二次元の表を正しく読み取ることができた。表の合計数から、空欄の数を求める活動を取り入れてきた成果と考えられる。また、表の枠が表す数の意味についても正しくとらえることができた。今後は、二次元の表などのデータを活用し、そこから読み取れる情報を説明したり、言葉にして表したりする力をより高められるよう指導していく。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	83.3	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	68.9	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	87.4	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	67.5	56.4	55.8
観点	知識・技能	77.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	71.5	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・平均正答率は83.3%であり、市の平均より19.0ポイント高い。 ○直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて、正答率は市の平均を82.2%で20.1ポイント高い。 ○電流が流れない回路を流れるように改善する問題では、正答率が84.4%で市の平均より20.2ポイント高い。	・電流に関する内容については、十分な体験的な活動を行ったことで、確かな理解が得られたものと考えられる。今後も体験活動や試行錯誤する場面を多く取り入れることで、児童の意欲を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	・平均正答率は68.9%であり、市の平均より13.5ポイント高い。 ○水のあたたまり方について、実験の結果を解釈し、考察できるかどうか見る問題では、正答率が84.4%で、市の平均より17.2ポイント高い。 ●ガラス瓶の蓋の上の1円玉が動いた理由を温められた空気の性質と関連付けて表現する問題では、市の平均を4.6ポイント上回っていたが正答率が35.6%と低い。	・温度による空気の体積変化について、フラスコの栓、ボールやピンポン玉、ペットボトルにつけた風船やシャボン玉、空の容器等、様々な体験活動を取り入れる。さらに、温めると体積が～、冷やすと体積が～、とキーになる言葉を用いて表現することを繰り返し行い、未知の場面に応用する発問や生活の中で見られる現象について話し合う活動を取り入れることで、概念的な理解につなげていく。
「生命」を柱とする領域	・平均正答率は87.4%であり、市の平均より7.3ポイント高い。 ○オオカマキリとトノサマガエルの越冬について答える問題では、正答率が100%で、市の平均を11.2ポイント上回っている。	・今後も十分な体験活動を通して実感を伴った理解を図ることができるよう、環境整備を行う。 ・生き物に触れることができる環境で生活していることで、動物の冬の過ごし方の違いを理解していると考えられる。今後も、身近な環境を活用して、生き物の特徴や生態への興味関心を持続させていきたい。
「地球」を柱とする領域	・平均正答率は67.5%であり、市の平均より11.1ポイント高い。また、すべての問題において、市の平均の正答率を上回っている。 ○雨の日の気温の変化について答える設問の正答率は86.7%で、市の平均より21ポイント上回った。	・十分な体験活動を通して実感を伴った理解が図られた成果だと思われる。今後も実感を伴う実験や体験を重ねていきたい。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○学ぶ意欲に関わるものとして、「勉強していて、おもしろい、たのしいと思うことがある。」に対する肯定的回答は95.7%で、市より12.4ポイント高く、勉強していて、不思議だな・なぜだろう」と感じることがある。」に対する肯定的回答は、89.2%で、市より3.6ポイント高い。今後も児童の興味・関心を高める導入の工夫を取り入れたり、重要語句や公式などの理解を深め、応用問題に取り組んだりするなどし、学ぶ意欲を高める工夫を図っていく。	
○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」の肯定的回答は97.9%で市の平均を6.4ポイント上回っている。また「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答は54.4%で、市の平均を4.9ポイント上回っている。学習内容に応じてペアやグループ・全体発表などを適切に取り入れ、児童が主体的・対話的に考えを発表し合える授業展開を工夫してきた結果と思われる。今後も児童が主体的・対話的に話し合いに取り組める授業の工夫をしたり、自分の考えを改めて認知する機会を設けたりしていく。	
●家庭での学習に関わるものとして「家で、学校の授業の予習をしている。」に対する肯定的回答は41.3%で市より13.6ポイント低い。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」に対する肯定的回答は56.4%で市より5.4ポイント低い。自分で課題を見つけて予習・復習や応用問題に取り組んだり、「自主学習のヒント集」を活用して家庭学習に取り組んだりできるよう指導・支援をしていく。	
●学校での様子に関わるものとして、「学習に対して、自分から進んで参加している。」に対する肯定的回答は58.6%で、市より12ポイント低い。今後は、児童の学ぶ意欲の高さを生かし、児童が主体的・対話的に授業に参加できるように、学習活動を工夫した授業展開になるように努める。	
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」に対する肯定的回答は52.2%で市より10.6ポイント低い。学習の振り返りや考えをまとめる時にふりかえりの視点を与えたり例示をしたりするなどして書く力の向上を図っていく。	

宇都宮市立岡本小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が言葉の力を伸ばす工夫	授業で各教科における重要語句を繰り返し意識させ、自分の考えを言語化する場の設定をする。 また、話し合いの話し型・書き方の型を提示し、それをもとに友達と論理的に話し合いを進め、課題解決に見通しをもって取り組めるようにする。	「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しい」の肯定回答率は、4年生は県の平均より16ポイント、5年生は10.6ポイント多くの児童が難しいと感じると回答している。「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いている」では児童の肯定回答率が4年生が1.6ポイント低く、5年生では4.4ポイント高い。さらに、「算数の授業で問題のとき方や考え方がわかるようにノートに書いている」では肯定回答率が4年生が5.7ポイント高く、5年生が8.7ポイント高い。話し型を提示した上で、話し合いやまとめの活動に継続的に取り組んできたことで、自信をもって自分の言葉で表現することが少しずつできるようになってきている。今後、更に、自分の思いを相手に伝えるように言葉を選んでまとめる活動を充実させていく必要がある。
児童が自信をもって伝え合うための工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかを気付けるようにする。また、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行い、定着を図る。 自分の考えを適切に言語化できるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりし、学習に取り組むことができるようにする。	「授業では、自分の考えを発表する機会をあたえられている」の肯定回答率は、4年生では9.8ポイント、5年生では10.1ポイント県の平均を上回っている。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定回答率は、4年生で7ポイント、5年生で6.4ポイント、県の平均を上回っていることから、言語化を積極的に行う環境が整い、児童が意欲的に話し合い活動に参加していることが伺える。「授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されている」の肯定回答率は、4年生は3.6ポイント、5年生は6.9ポイント、県の平均を上回っており、5年生に関しては肯定回答率が100%である。また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的確率は、4年生は8.6ポイント、5年生は4.7ポイント、県の平均を上回っていることから、授業中、目標をもって授業に取り組み、学ぶことに興味関心をもちながら、次の学習活動につなげることができている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、各教科に共通する課題として、長文の問題文の題意を捉えきれず、文章で理由を説明する問題や条件に沿った内容に説明文を要約する問題の正答率が低い傾向がある。	各学年、各教科で教科の重要語句を理解させ、既習の語句や内容を繰り返し取り上げ、自分で考えを書いたり説明したりする言語活動を、教科横断的に取り入れる。 教師が児童の発言をコーディネートし話し合い活動を充実させる。	どの教科においても、国語辞典や漢字辞典、ICT機器を活用し、語彙の正確な意味を理解しながら文章を読む活動を意図的に設け、漢字の読み書きといった基礎基本を繰り返し復習し、語彙力を増やす。また、教科の重要語句を使い文字数や段落などの条件を付け加えた文章を書く活動を取り入れ、的確に表現する方法を習得させる等、言語活動の質を高める。また、授業内容に関する「パワーアップシート」や「復習教材」「過去問題」を適宜取り入れ、様々な問題を解く機会を意識して設ける。 話し合い活動で、児童の思考過程を教師が質問などで考え方や根拠を導き出し、論理的な話し合いを成立させ、児童同士でお互いの意見の意図が理解できる言語活動を設定する。 振り返り活動では、振り返りの視点を明確にし、力がどのくらい身に付いたか授業者と学習者ともに確認しフィードバックを返すことで質を高めていく。